

令和4年12月1日

宮崎大学

No.35

発行
宮崎大学工学部
化学会

〒889-2192 宮崎市学園
木花台西1丁目1番地
TEL(0985)58-7309(塩盛)
FAX(0985)58-7323

工学部化学会会報



宮崎大学工学部 1 年生ソフトボール大会 応用物質化学プログラムチーム



CONTENTS

〇ごあいさつ.....	2
〇本部から.....	2
〇本部だより.....	6
〇支部だより.....	6
〇学科・プログラムだより.....	8
〇年次別所感・職場を語る.....	10
〇新みやざきはいま.....	16

ごあいさつ



会長

日高宗徳

(59 年卒)

この度会長をお引き継ぐ事になりました。昭和 59 年度卒の日高宗徳です。

前年の理事会にてご指名頂き、このたび令和 3 年度理事会において、三重野前会長よりバトンを受けました。副会長を 3 年余り勤めさせていただきましたが、この度は、責任の重さは全く違うこの大役に取り組むことになりました。スキルはまだまだ不十分ですが、全力を挙げて職責に邁進していきたいと思います。

今般の社会不安定な環境の中、三重野前会長が長年本理事会運営と化学会の存続維持に御尽力されて来られたことにまずは感謝し労い致します。少し私の自己紹介を致しますと昭和 37 年宮崎県西都市に生まれ、昭和 55 年宮崎大学工業化学科入学、昭和 61 年竹井研究室で修士課程を修了。同年、宮崎沖電気へ入社し、社名変更したラビスセミコンダクタ株式会社宮崎工場に現在勤めております。大学 3 年時の研究室配属までは陸上競技に明け暮れ、当時アルバイトで購入した 8 ビットマイコンでゲームやシステム、パソコンの構造に興味を持った事から半導体製造の現会社へ就職致しました。今も新しい物好きは変わっておりません。

私が化学会に出席させて頂いたのは河野恵宣先生、塩盛弘一郎先生のお声掛けからでした。諸先輩や後輩から多種多様な話しをお聞きする事が出来るため会合へ参加させて頂いています。毎回関心するのは塩盛弘一郎先生を理事長とした本部事務局運営の宮武宗利先生、宮崎支部運営の菅本和寛先生を中心に良くまとまっている事です。頼もしい事務局が化学会を支えて頂いているのだと感謝しています。

現在、新型コロナウイルス感染症による社会活動が制限され、日常生活や様々な行事の予定が全く立たず、化学会の活動にも影響が避けられない状況に直面しており、私たちが経験した事のない影響が随所にみられています。

社会を取り巻く環境は、益々厳しくなっておりますが、コロナ禍終息後に皆様とお話しさせて頂き、何が自分にできるのか探って行き、微力ではございますが、理事会役員、事務局と一丸となって化学会の皆様のご要望にお応えするべく尽力致します。

本会の主旨である化学会会員の親睦と宮崎大学の学科の発展に皆様方のご理解とお力添えを引き続きお願い致します。最後に会員各位のご発展とご健勝を祈念申し上げ挨拶と致します。



理 事 会 報 告

化学会会報 No.35 もお届けするのが非常に遅くなり誠に申し訳ありません。

新型コロナの感染拡大も長くなり、我々の対応も慣れてきたところですが、感染拡大は収束していません。十分なコロナ対策を行い昨年度と同様に令和 3 年度の理事会を宮崎大学まちなか・キャンパスで開催しました。今回も Zoom を用いた遠隔参加も可能として令和 3 年 12 月 11

理事長

塩盛弘一郎 (63 年卒)

日 (土) に開催しました。

三重野会長以下の役員 10 名と Zoom による遠隔参加が 1 名の参加と 16 名分の委任状がありました。(1)令和 2 年度事業報告、(2)令和 2 年度会計報告、(3)令和 3 年度事業計画と会報 No.35 の企画、(4)令和 3 年度予算、(5)役員の改選について、(6)その他について審議されました。

令和2年度の本部事業は、新型コロナウイルス感染拡大のため、本部理事会(2019/12/11)を開催したのみで、その他の化学会の行事、および工学部同窓会と同窓会連合会の行事は全て中止となりました。

会報 No.34 号は、インターネット入稿による格安の印刷会社を利用して格安で印刷しました。さらに、会報の発送を全員に行わずに、5年以内に会費納入の実績があった会員、60歳以上の会員および卒業後5年以内の会員に限定して郵送したことを報告しました。これらのことから会報 No.34 の発行費が大幅に削減されました。会報を送付しなかった方への案内が不十分であったことからホームページの活用などを提案されました。

会計報告では、会報 No.33 の印刷と発送の遅れにより会費収入が遅れていた分が納入されたが、会報 No.34 の発送も遅れたため会費納入が遅くなり、令和2年度会計の収入に入っていないことを報告しました。会報 No.33 の発送後、会費納入が行われて令和3年度の会計は改善されている事を報告しました。

役員改選では、三重野会長より令和3年度の理事会で会長を交代する事を提案頂いていましたが、三重野会長から昭和59年卒業の日高宗徳氏へ交代する事が提案され、参加者の全員一致で承認されました。さらに、昭和62年卒業の原口章司氏の常任理事への就任が事務局から提案され、承認されました。

以上が理事会報告となります。Zoom による遠隔参加を併用した理事会の写真をご覧ください。

会報 No.34 で紹介しました、まちなかキャンパスに勤務されていた元技術職員の斎藤泰男さんは令和3年度で退職されました。長い間ありがとうございました。

長い間化学会を支えて下さった村田 武宮崎支部副支部長の訃報がありました。ご冥福をお祈りします。

化学会のホームページ(<http://www.web-dousoukai.com/kagakukai/>)および工学部同窓会の名簿システムの活用をお願いいたします。各種行事の日程確認、住所情報の更新、会費納入状況、会員相互の連絡などが行えます。郵便、電話、FAX、電子メールなどによる住所変更も受け付けております。会員名簿のより一層の整備にご協力をお願いいたします。また、Facebookからも情報発信しています(化学会本部：www.facebook.com/miyadaigakakukai；東京化学会：www.facebook.com/mu.tokyokagakukai；化学会宮崎支部：www.facebook.com/kagakukaimiyazaki)。各支部の行事や各卒業年次の同窓会などの連絡などに活用をお願いします。各卒業年次の名簿情報の提供なども相談ください。

令和4年が終わりに近づいても新型コロナウイルス感染が繰り返され収束には至りませんが、以前の生活が戻って来つつあります。しかしながら気を緩めず感染に十分気をつけてお過ごし下さい。



集合写真

宮崎大学工学部化学会(本部) 令和2年度会計報告

令和2年4月1日～令和3年3月31日

収入の部		支出の部	
科目	金額	科目	金額
前年繰越	296,991	No.33&34 会報発行	476,283
利息	0	会議費	0
本部会費	491,795	事務費他	1,092
雑収入	0	慶弔費	4,378
		支出合計	491,753
		翌年度繰越	297,033
合計	788,786	合計	788,786

上記の通り報告致します。

令和3年12月8日 本部会計 稲田飛鳥

令和2年度(令和2年4月1日から令和3年3月31日まで)の会計報告、ゆうちょ銀行振替口座および郵便貯金総合通帳、太陽銀行通帳および付属領収書を監査した結果、適正に処理され、記載されていると認める。

令和3年12月8日 本部監査 山下敏明

第1条 本会は、宮崎大学工学部化学会と称し、本部を宮崎大学工学部内に置く。また必要に応じ、支部を置くことができる。

第2条 本会は、会員相互の親睦をはかり、会員ならびに宮崎大学工学部環境応用化学科の発展を期するを目的とする。

第3条 本会は、次の会員をもって組織する。

1. 正会員

宮崎工業専門学校化学工業科卒業生

宮崎大学工学部

工業化学科卒業生

物質工学科応用化学コース卒業生

物質環境化学科卒業生

環境応用化学科卒業生

宮崎大学大学院工学研究科

工業化学専攻修了者

物質工学専攻応用化学系修了者

物質環境化学専攻修了者

工学専攻環境系コース応用化学分野修了者

物質エネルギー工学専攻応用化学系修了者

宮崎大学大学院農学工学総合研究科

化学関係専攻・コース修了者

2. 学生会員

宮崎大学工学部

環境応用化学科学生

宮崎大学大学院工学研究科

工学専攻環境系コース応用化学分野学生

3. 特別会員

宮崎大学工学部工業化学科、物質工学科

応用化学コース、物質環境化学科、

環境応用化学科関係教職員

第4条 本会本部に次の役員を置く。

1. 会 長（1名）
2. 副会長（5名）
3. 理事長（1名）
4. 事務局長（1名）
5. 常任理事（30名以上）
6. 理 事（各支部代表者）
7. 会 計（1名）
8. 監 査（2名）
9. 顧 問（若干名）

第5条 役員は、次の方法により定める。

1. 会長、副会長は、会員の推薦により理事会で承認する。
2. 常任理事は、会員の推薦により、会長が委嘱する。
3. 理事は、各支部より選出された支部長とする。

4. 理事長および事務局長は、常任理事および理事の互選とする。

5. 会計および監査は、会長が委嘱する。

第6条 役員の職務は次のように定める。

1. 会長は、会務を総括する。副会長は会長を補佐し、会長事故あるときはこれに代わる。
2. 理事長は、会務を執行する。
3. 事務局長は本会の事務を分掌する。
4. 常任理事は、理事長を補佐し、会務を分掌する。
5. 理事は支部を代表して本部との連絡にあたる。
6. 会計は、本会の会計を執行し、監査は本会会計を監査する。

第7条 理事会、常任理事会の運営については、次のように定める。

1. 理事会は、会長が招集し、会務を協議する。
2. 理事会は会長、副会長、理事長、事務局長、常任理事、理事、会計及び監査をもって構成する。
3. 理事会は、委任状を含めて構成員の過半数で成立し、議決は、出席者の過半数の同意を必要とする。
4. 理事会は、年1回以上開催するものとする。
5. 常任理事会は必要に応じて理事長が招集、開催し、理事会の決定に従い、通常の会務を執行する。
6. 常任理事会は理事長、事務局長および常任理事をもって構成する。

第8条 役員の任期は1年とし、再選は妨げない。

第9条 支部長は、支部における事業の概要および会員の移動等について、毎年4月末日までに報告するものとする。

第10条 本会の運営費は、正会員会費（年額一口1,000円以上）と有志の寄付をもって充当する。

第11条 本会の会計年度は4月1日より始まり、翌年の3月31日で終わるものとする。

第12条 化学会会員名簿は、必要に応じて発刊する。

第13条 本会の会則は、理事会において行うが、出席者の過半数の同意を必要とする。

付 則

本会則は、昭和56年5月30日から実施する。

平成元年7月22日一部改正。

平成2年7月14日一部改正。

平成11年6月26日一部改正。

平成22年6月12日一部改正。

平成28年6月25日一部改正。

平成30年7月7日一部改

宮崎大学化学会役員名簿

2022.12.1

	役 職	氏 名	卒業年		役 職	氏 名	卒業年
本部	会 長	日高 宗徳	59	宮崎支部	支部長	黒木 幸英	45
	副会長	原田 繁利	38		副支部長		
	〃	佐藤 松男	41		理 事	原田 繁利	38
	〃	井上 利行	46		〃	湯浅 直克	43
	〃	清山 史朗	H4		〃	田村 孝	49
	理事長	塩盛 弘一郎	63		〃	日高 宗徳	59
	事務局長	宮武 宗利	H5		〃	山下 敏明	60
	常任理事	福島 勝也	35		〃	三島 幸一郎	62
	〃	石塚 哲也	36		〃	川越 義則	H4
	〃	河野 恵宣	38		〃	宮武 宗利	H5
	〃	前田 武	39		〃	有馬 明美	H9
	〃	満永 利夫	48		〃	岩熊 美奈子	H11
	〃	明石 保雄	53		〃	廣澤 直也	H16
	〃	曾根 秀樹	61		〃	松本 朋子	H17
	〃	堤 信夫	61		〃	土井良 俊輔	H19
	〃	原田 章司	62		〃	大柴 薫	H26
	〃	三島 幸一郎	62		会 計	金丸 慎太郎	H19
	〃	河野 豊	H1		監 査	清山 史朗	H4
	〃	後藤 健児	H1		〃	鶴田 哲也	H11
	〃	二見 宗英	H1		事務局長	菅本 和寛	H3
	〃	菅本 和寛	H3	東京支部	支部長	田原 修二	58
	〃	猪股 康久	H4		副支部長	池田 博之	55
	〃	小林 吾一	H5		副支部長	中村 年秀	H16
	〃	戸次 太道	H7		常任理事	吉丸 昌吾	H20
	〃	梅元 大輔	H8		〃	飯田 明日香	H21
	〃	坂元 登	H8	名古屋支部	理 事	秋吉 孝則	32
	〃	亀田 幸治	H9		支部長	原 明男	46
	〃	小玉 誠	H10		副支部長	大杉 収	46
	〃	岩熊 美奈子	H11		幹事	菊 健	40
	〃	長友 秀峰	H11		〃	上田 和生	43
	〃	越智 洋	H12		〃	高松 昇司	63
	〃	吉山 武伸	H12		〃	鈴木 博統	H7
	〃	石橋 奈穂子	H12	関西支部	〃	寺尾 匡史	H17
	〃	古市 佳代	H13		支部長	正明 耕一	H5
	〃	津波 伸一郎	H14		副支部長	相川 拓郎	H19
	〃	甲斐 康平	H15		幹事	小宮 広志	45
	〃	廣澤 直也	H16		〃	山元 賢二	57
	〃	松本 朋子	H17		〃	塚崎 孝規	H19
	〃	江間 智	H17		〃	池田 百合子	H21
	〃	金丸 慎太郎	H19		〃	北林 卓朗	H23
	〃	荒木 志織	H21		〃	明比 省吾	H25
	〃	平野 誠一郎	H28		会計(兼務)	相川 拓郎	H19
	理事(東京)	田原 修二	58	北九州支部	監事	田幡 正裕	H1
	〃(名古屋)	原 明男	46		支部長		
	〃(関西)	正明 耕一	H5	福岡支部	幹事	矢野 強	40
	〃(北九州)				〃	中村 博	41
	〃(福岡)	外園 令明	55		支部長	外園 令明	55
	〃(宮崎)	黒木 幸英	45		幹事	宮原 陸人	36
	会 計	稲田 飛鳥	H24		〃	富永 陸男	37
	監 査	山下 敏明	60		〃	串間 弘章	41
	〃	真 隆志	H4		〃	吉井 征治	41
	顧 問	日高 兵馬	22		〃	塚本 孝二	52
		三重野 彰敏	47		〃	小柳 直之	H2
					〃	米倉 誠	H9

本部だより



本部 顧問

三重野彰敏 (47 年卒)

「思い出」

今年こそコロナが終焉するかと思いきや「オミクロン」なる新しいコロナ株が流行りだしました。いろんなワクチンや飲み薬ができるときいています。早く終わってほしいですね。さて私が会長に就任したのは 2006 年(平成 18 年)でした、それから 15 年が経ちました、この度、会長を退任して日高宗徳君(S59 年卒)にバトンを渡すことになりました。思えば あつとゆうまの 15 年でした。河野恵宣先生、原田繁利先生、佐藤松男先輩をお目付けに塩 盛先生、宮武先生、菅本先生達のリードでここまでやってこれました。本当にありがとうございました。私の同窓会の定義は「恩師をかこんで卒業生たちが集い語り合いそして楽しく 飲む」でした。私はそれを実践したつもりでしたが皆さんの評価はどうでしょうか。さて思い出として 1 番に来るのが恩師の退職記念パーティー、米寿等のお祝い、各年度の同 窓会や旅行、各支部の総会でした。私が初めに関係したのは H19 年(2007 年)私の恩師「竹 井國雄先生」の米寿の祝いでした。遠方からもたくさんの卒業生が参加され盛大な会になりました。竹井先生はとても喜ばれ、歌「さむらい日本」を歌われたのを今でも覚えています。次に二八会や竜宮会の大先輩たち、元気で行動力があり全国から集まり結束の強さには感 服しました、同行した高千穂旅行は雲海とともに忘れません。東京支部の総会には 3 回ほど参加させていただきました、最初は科別にやり、懇親会を工学部全体でやる方法で、化学 会の参加

者は何時も多くしかも女性が参加してますので目立ちます、2 回目の時だったと思 います私の高校の同級生だった舩添要一君が都知事を辞めるかどうかでもめていた時でし た、電気科卒の古賀連合会長も参加していて、私のスピーチの中で古賀会長に次の都知事に 出られたらどうですか？と聞いたところ皆からやんやの喝采でした。最近では保田昌秀先生最後の授業が心に残りました。保田先生は恩師の志摩健先生がそうであつたように 化学会にすごく理解があります、本当にありがたく思っています。元化学会会長の日高兵馬先輩の米寿の祝いにも参加させていただき、船木哲先輩や、天野雅太先輩等化学会の重鎮の 顔が揃いました。2 番目は工学部全体の同窓会の発足。これは工学部の改組により科の 名前が変わる為、同窓会がなくなってしまうから工学部全体ですとのことですが、現状は 私たちの化学会のように科独自の同窓会は亡くならず二部制になっています。機会も土木 も同じです。やはり自分が学んだ恩師がいて同級生がいないとあまり参加する気がしない ですよ。3 番目は同窓会に欠かせない「同窓会名簿」です、作ろうとしたのですが個人情報保護法の壁に阻まれ、WEB ですることになりましたが、皆さん活用してくださいね。化学会独自の LINE や卒業年度別のも作れば更に盛り上がることでしょ。4 番目は 宮崎大学の第一回ホームカミングデイが平成 23 年 11 月 19 日(2011 年)に開催されました。宮崎大学全体の同窓会です、雰囲気も少しアカデミックでした。今後も継続してゆくと でしょう。皆さんも時間が許せば同窓会に参加して楽しんでください。最後になりました が会長を 15 年もやってこれたのは皆さんのおかげですありがとうございました。

支部だより



東京支部

支部長

田原修二

(58 年卒)

日本では、2020 年の年初から徐々に始まった新型コロナウイルス(COVID-19)。徐々に、というの、今から思えば、ですが。今年は感染性を増したデルタ株が、東京で最高 1 日で 5,000 人

超、全国で 26,000 人感染するという猛威を振るいました。一次どうなるかと思われましたが、ワクチンの効果でしょう、12 月には東京でも 10 人を下回るほどになりました。最近、安心してた矢先、またまた世界で猛威を振るい始めた、更に感染性が高いと言われるウイルス、オミクロン。日本人は、車が来なくても信号が青にならなければ渡らないという、マナーを重んじる傾向にあり、それが幸いしているという話もあります。もう

暫くの辛抱です。3回目のワクチン接種に期待しつつ、まさにウイズコロナそしてアフターコロナ社会に早くなって欲しいと思います。

支部だよりということですが、残念ながら今年も関東地区で、例年6月の第二土曜日に実施している、東京化学会総会・工学部合同同窓会は中止と致しました。年末の状況が続くようであれば開催の可能性は有りますが、オミクロンの影響次第と思われます。関東地区の会員の皆さんへは、早めに連絡を差し上げたいと思います。

そういうことで、特別な活動はほとんどできていない状況ですが、連絡先がわかっている皆さんに対しては、今年も年賀状を出させて戴きました。一人ひとり、皆さんのお顔を思い出しつつ、と言いたいところですが、若いころにお会いした、またはお会いしたことも無い方々も多く、またいつかお会いできる時があるのか、と思いつつ書いておりました。関東地区で、年賀状を受け取っ

ていない方は、本部へご連絡ください。友達を通してでも結構です。

また、12月にはコロナが収まっていたこともあり、宮崎の総会に出席させて戴きました。本部では会長の交代ということで、ある意味節目になるのかもしれませんが。三重野会長、長い間お疲れさまでした。この場に立ち会えてよかったと思います。また、今後の同窓会の在り方についても先生方と話し、今後に生かせればと考えています。

コロナ、コロナですが、幸いにして、今年は大きな自然災害は有りませんでしたね。ただ、大きくは有りませんが、全国で地震が発生しているのは少し気になります。皆さん、くれぐれも災害に対する備えは怠らぬようにしましょう。また、もう暫く、マスク、消毒、3密、ソーシャルディスタンス等、適切に遵守しながら毎日を送りましょう。



宮崎支部

支部長

黒木 幸秀

(45年卒)

本年度も昨年度に引き続き、コロナ禍の1年でした。一時期に比べ新規感染状況は国内では沈静化の傾向にありましたが、11月頃から新型のオミクロン株感染が世界で猛威を振るい始め、今後日本への感染拡大の影響が懸念されております。

コロナ感染防止拡大のため、年度当初は殆どどの関係団体が三密対策として総会等の会議は書面による決議で開催されましたが、下半期頃からzoom等による会議やその他の情報機器等による、対面ではなく通信による手段が多くなってきています。これからは情報通信機器を活用した非対面による方法となり、さらに「ヒトからモノ」にも拡大し、日常の生活スタイルそのものが変化してくることから、多方面の分野で活動の在り方も変化してくるのではないかと考えます。

さて、化学会宮崎支部の報告です。本年度もコロナ禍のために支部理事会・総会が開催できませんでしたが、令和3年12月1(土)10時から、宮崎市若草通りの「宮大まちなか

キャンパス」で、本部理事会に出席しました。塩盛理事長の現況報告後、宮武事務局長から会計報告等があり、支出経費削減のために、会報の発行・郵送を長期間会費未納の約半数の会員は止めたこと、印刷手段をインターネットに変更したこと等の説明があり、zoom会議で出席した各支部理事を含め全員一致で承認されました。また、役員の改選の中で、改めて会長選任の報告があり、永年会長として尽力された昭和47年卒の三重野氏の退任挨拶、昭和59年卒の日高氏からは新任挨拶等がありました。三重野氏は永年各支部との交流を始め、宮崎大学等との連携強化に努めていただきました。本当にお疲れ様でした。今後は顧問として高所大所から化学会や工学部発展のために各種の助言や指導をお願いしたいと思います。日高氏は情報関連の会社に勤務されておりますので、従来とは違った情報通信手段を活用した化学会の運営に取り組まれるのではないかと活躍を期待しております。

地元宮崎支部としましても、大学、工学部及び化学会の充実発展のために、各支部会員・役員、化学会本部、関係役員の方々と連携や支援してまいりたいと思います。

学科近況報告

令和3年度学科長・プログラム長 湯井 敏文

世界を席卷した新型コロナウイルスも、ようやく鎮静化の兆しが見えてきたようです。本学においては、コロナ感染報告が散発的にあったものの、幸いにもクラスターや死者・重篤患者の発生にまで至っておらず、むしろ、コロナワクチンの副作用で少くない人数の学生・教職員が体調を崩す始末です。リモートによる講義、会議、および講演会などはやや日常的となり、学生諸君にとって、種々の就職活動や卒業・修士論文発表とは対人でなく、PC画面を相手にするものとなっています。

さて、そのようなコロナ禍の中、本年度4月より、旧環境応用化学科から「応用物質化学プログラム」として新たなスタートが切られました。旧環境ロボティクス学科から酒井剛教授、松永直樹准教授が、さらに環境・エネルギー工学センターから奥山勇治教授が同プログラムに合流されまし

た。また、3年間のテニュアトラック期間を経て宇都卓也先生が、11月1日付で同プログラム准教授として着任されました。この「プログラム」とは、従来の「学科」の概念と比較して、より柔軟かつ流動的な組織運営を想定しており、今後、プログラム間での学生移動や教員構成の変動が予想されます。将来、工学部において応用化学、化学工学、さらに生物工学に関わる教員組織としてのアイデンティティを失わないためには、同プログラムに所属する教員に対して、これまで以上に教育・研究面に向けた成果が要求されます。卒業生の皆様におかれましては、今後とも私どもへのご支援を賜りますようお願い申し上げます。

最後になりますが、嬉しいニュースとして菅本准教授が所属する研究チームが本年度の宮崎日日新聞賞（科学賞）を受賞されたことをご報告申し上げます。

教員名簿（令和3年12月1日現在）

組織	教授	准教授	助教
応用物質化学プログラム	大島達也 酒井剛 塩盛弘一郎 白上努 湯井敏文 横井春比古	宇都卓也 菅本和寛 鍋谷悠 廣瀬遵 松永直樹 松根英樹 松本仁	稲田飛鳥 宮武宗利
工学基礎教育センター		大榮薫	
環境・エネルギー工学研究センター	奥山勇治		

物質機能化学分野 塩盛・松根研究グループ

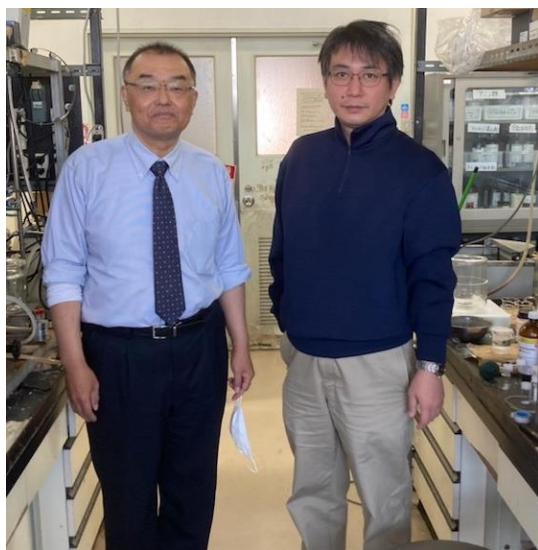
教授 塩盛 弘一郎

私たちの研究グループは、塩盛と松根英樹准教授の2名で構成されており、物理化学分野の教育と異相系界面の化学反応制御工学の研究を行っています。界面の化学反応制御工学と書くと分かり難いかもしれませんが、混じり合わない水と油や気体と液体の境目、洗剤分子などが自己組織的に集まった分子集合体、および多孔質材料の表面などの界面を利用して材料調製、分離プロセスや化学反応に応用する研究を行っています。昔からの研究室でいうと、熱化学の研究をされた草野一仁教授、抽出操作や反応速度およびマイクロカプセルの調製と機能化の研究をされた河野恵宣教授が率いられた物理化学研究室の流れを汲んだ研究室となります。平成17年3月に河野恵宣教授が定年退職された後、田畑研二教授、続いて保田昌秀教授が物理化学分野の教育と一緒に担当してくださいました。平成29年4月に塩盛が教授に昇任し、令和元年11月に松根先生が九州大学工学研究院より准教授で赴任され、現体制となりました。松根先生が赴任されて直ぐに新型コロナウイルスの感染が広がり、講義や実験を行うのが大変な状況となりました。現在は、対面での講義が多くなり、実験室にも活気が戻って来つつあります。松根先生が着任されたことで、分子集合体を利用したナノ粒子やナノワイヤの調製に関する研究が広がり、ナノからミリのオーダーまで幅広い大きさ

の粒子や細孔の材料を扱い、これらの機能を制御して役に立つ材料や化学プロセスの構築に繋がたいと研究に取り組んでいます。

新しく改組された工学部工学科で化学系の教育と研究は応用物質化学プログラムで行われています。新しい工学部の教育では工学部共通の科目の履修が増え、物理化学分野の科目は、物理化学Ⅰ、物理化学Ⅱ、反応工学、安全工学の4科目となりました。改組前からすると1科目分減っているのですが、その分を私達が担当する工学部共通の科目の中に盛り込んで、学ぶ内容はほとんど変わらないようにと教育しています。物理化学は、学生にあまり人気のない分野で、分かり難いと言われますが、化学に幅広く関わる基礎の分野ですので、少しでも理解して役に立つようにと二人で工夫して講義を行っています。

これからもよろしくお願い致します。



左側が筆者、右側が松根准教授

令和3年3月修了生・卒業生就職先及び修論・卒論題目

氏名	就職・進学先	論文題目	指導教員
浅野 迅矢(修士)		カリックスアレーン誘導体の溶剤としての芳香族エーテルの開発と溶媒抽出特性の評価	大島
岡田 美沙希(修士)	化学物質評価研究機構	キチン結合性タンパク質ヘベインによる糖鎖認識	湯井
越智 貴大(修士)	シンワ	乳化法による β -クリプトキサンチンの高分散化と経口吸収性の評価	大島
甲斐 巧也(修士)	ラピスセミコンダクタ宮崎	ヒュウガトウキに含まれるアンギュラー型ピラノクマリン類の分析と微量含有成分の合成	菅本
酒井 一樹(修士)	アムコーテクノロジーズ	異なる長さのアルキル鎖をもつアゾベンゼンとニオブ酸の複合化と光誘起形態変化	白上・鍋谷
末園 裕汰(修士)		セルロース-アミン複合体におけるゲスト分子の挙動	湯井
中島 光(修士)	金井ホールディングス	蛍光分子プローブを用いた多フッ素化界面活性剤/粘土複合体の層状環境解析	白上・鍋谷
治田 惇平(修士)	霧島酒造	ビフェニル/PCB分解性シュドモナス属細菌の芳香環メタ環開裂経路の調節に関する研究	横井・廣瀬
一ツ松 諒(修士)	東ソー	金属錯形成反応に伴い薬物包括性を変える両親媒性短鎖ペプチドの開発	大島
本田 佳大(修士)	ソニーセミコンダクター	環境調和型酸化反応を鍵反応とするフィトールからフィタン酸への変換	菅本
前田 倫太郎(修士)	伊勢化学	光in situ重合によるマイクロカプセルの調製と生体触媒の固定化	塩盛・松根
牧平 広大(修士)	京セラ	糖連結法の最適化によるリンボルフィリン光増感剤の開発と光増感作用	松本
松永 大輝(修士)	ワコーケミカル	ホウレンソウおよびポットマリーゴールドに含まれるカロチノイド類の簡易分析法の開発	菅本
松本 明香里(修士)	宮崎県環境科学協会	水溶性ポリマーの添加による焼酎粕の固液分離特性	塩盛・松根
松元 彩加(修士)	ヤクルト	ニオブ酸ナノスケール複合体の作製と微細構造解析	白上・鍋谷
森田 晃代(修士)	Falco	アゾベンゼン/ニオブ酸複合体における光運動機能の発現	白上・鍋谷
山原 くるみ(修士)	コスモス薬品	有機酸を用いた均一系およびエマルション系でのシリカゲル粒子の調製	塩盛・松根
橋田 翔太		細菌由来のラッカーゼによるレスベラトロールの変換	横井・廣瀬
伊東 準平	吉川工業アルエフセミコン	内水相にトレハロースを含む多孔性マイクロカプセルの調製	塩盛・松根
末安 暉子	ビックモーター	ヒモケイトウ種子由来の抗菌性ペプチドの糖鎖基質認識	湯井
川口 勇樹	オリバー	塩酸系からの半金属抽出に適したイオン溶媒と抽出剤の比較検討	大島
井 達哉	宮崎大学大学院工学研究科	N-混乱ボルフィリン誘導体の酸化還元電位に対する置換基効果	白上・鍋谷
石橋 竜也	宮崎大学大学院工学研究科	カリックス[4]アレーン酢酸誘導体に対する良溶媒の探索と金属抽出	大島
岩井 瑛登	九州大学大学院	ロイコマラカイトグリーン発色法を利用した血液中の脆弱赤血球の評価	松本
岩切 雄飛	宮崎大学大学院工学研究科	機械学習を活用したAu(Ⅲ)のイオン溶媒と抽出剤の探索	大島
江上 樹	宮崎大学大学院工学研究科	トレハロースナノ粒子を介した酵素内包シリカナノカプセルの調製	塩盛・松根
岡村 真由	東京エレクトロン	システインをインターカレートしたMgFe 層状複水酸化物によるAu(Ⅲ)の吸着特性	大榮
甲斐 隆寛	宮崎大学大学院工学研究科	ミカン搾汁残渣からの β -クリプトキサンチンの回収と分散性向上	大島
亀島 烈	宮崎大学大学院工学研究科	3,6-ジオキサデシルピリジニウム置換基を持つP-ボルフィリン錯体の合成	松本
狩野 純也	共立電機製作所	ポリエチレンジスルフィドからなる新規単分散ラテックス粒子の開発	塩盛・松根
河野 拓真	専門学校	太陽光パネル廃ガラスを細骨材として代替利用したモルタルの物性評価	塩盛・松根
北嶋 優	宮崎大学大学院工学研究科	層状チタン酸塩とカチオン型多フッ素化界面活性剤の複合体作製	白上・鍋谷
黒木 貴裕	宮崎大学大学院工学研究科	Mg-Al 系層状複水酸化物を内包したポリアクリルアミドクワイオゲルとアルギン酸/PVA マイクロカプセルの調製および水中からの有害金属イオンの吸着除去	塩盛・松根
小海 篤人	宮崎大学大学院工学研究科	アゾベンゼン/チタン酸複合体の作製と形態観察	白上・鍋谷
後藤 匡一	名古屋大学大学院	ゲルマニウム-N-混乱ボルフィリン錯体の電気化学特性	白上・鍋谷
坂口 弘大	アルプス技研	アゾベンゼン/粘土複合体の光異性化反応における温度効果	白上・鍋谷
坂口 透馬		<i>Saccharomyces cerevisiae</i> と <i>Clostridium beijerinckii</i> の各種条件下における生育特性	横井・廣瀬
坂口 晴香	高田工業所	三価カチオンP-ボルフィリン錯体の菌体リソソームとの親和性評価	松本
笹貴 一馬	宮崎大学大学院工学研究科	抗癌剤への分散剤となる金属配位性短鎖ペプチドの構造設計	大島
澤尾 綾音	宮崎大学大学院工学研究科	消化ペプチドとの複合化によるケルセチンの水分散性および細胞透過性の改善	大島
首藤 賢太郎	宮崎大学大学院工学研究科	ビリジル基を持つゲルマニウムボルフィリン錯体の粘土ナノシートへの吸着挙動	白上・鍋谷

氏名	就職・進学先	論文題目	指導教員
白石 明日香	アベックス	多フッ素化界面活性剤/ニオブ酸複合体の作製とナノ層状構造	白上・鍋谷
新坂 綾子	富士シリシア化学	ヒドロキシ基を導入したキトサンナノファイバーによる金属イオンの吸着特性	大榮
砂田 麻里	サザンクロスシステム	ブルーベリー葉に含まれる難水溶性性プロアントシアニジンのナノ粒子化の検討	菅本
瀬ノロ ジョシユア	宮崎大学大学院工学研究科	ゲルマニウムN-混乱ポルフィリン・酸化チタン複合電極を用いた水の過酸化水素への光酸化反応	白上・鍋谷
十亀 侑矢	宮崎大学大学院工学研究科	(2 <i>R</i> , 6 <i>R</i> , 10 <i>R</i>)-と(2 <i>S</i> , 6 <i>R</i> , 10 <i>R</i>)-ブリスラン酸の合成	菅本
高島 彩華	宮崎大学大学院工学研究科	テトラエチレングリコールを介してグルコースを連結したP-ポルフィリン錯体の合成	松本
竹本 季代	三桜電機	<i>Saccharomyces cerevisiae</i> との混合培養における <i>Clostridium beijerinckii</i> の生育及び水素生産の特性	横井・廣瀬
武元 佑樹	宮崎大学大学院工学研究科	セルロース誘導体キラルセクターにおけるキラル認識	湯井
谷口 舞	太平電業	種々の溶媒環境中における α ヘリックスポリペプチド鎖の立体構造安定性	湯井
淵水 大和	宮崎大学大学院工学研究科	W/O エマルションを用いたタンパク質マイクロカプセルへの水溶性成分の高内包化	塩盛・松根
弦本 真穂	エーピーアイコーポレーション	リンポルフィリン・酸化チタン複合電極による水の過酸化水素への光酸化反応	白上・鍋谷
寺田 敬斗	宮崎大学大学院工学研究科	アミロース及びカードランの多重らせん形成過程	湯井
中島 正貴	宮崎大学大学院工学研究科	異なるアルキル鎖をもつアゾベンゼンを用いたニオブ酸ナノスクロール合成	白上・鍋谷
中村 祐輔		土壌より分離されたバイオサーファクタント生産性細菌の諸性質	横井・廣瀬
中山 皓貴	東郷メディキット	<i>Clostridium beijerinckii</i> の焼却灰培地における生育および水素生産の特性	横井・廣瀬
西村 洋輝	自衛隊	ペントース資化性酵母の各種炭素源を添加した培地での生育特性	横井・廣瀬
野田 虎太郎	宮崎大学大学院工学研究科	セルロース I 型-NH ₂ 複合体結晶モデルによるアンモニア分子拡散挙動	湯井
野田 陽介	宮崎大学大学院工学研究科	pH 応答性固体微粒子内包マイクロカプセルの調製	塩盛・松根
濱内 莉子	宮崎大学大学院工学研究科	Cu ²⁺ とPb ²⁺ を分離する新規抽出剤の開発と膜分離への応用	菅本
東保 和樹	岩谷瓦斯	ビフェニル/PCB 分解性細菌KF707 株の安息香酸メタ開裂経路欠失株の諸性質	横井・廣瀬
開 啓太	ゼミナール21	フェルギノールのスギオールおよびデメチルクリプトジャポールへの変換	菅本
福田 桂子	西野物産	日向夏由来アラビノガラクトンの主鎖構造解析	横井・廣瀬
藤田 歩果	宮崎大学大学院工学研究科	水溶性N-混乱ポルフィリンの光機能性に対するジメチル化効果	松本
藤波 寛人	宮崎大学大学院工学研究科	ビフェニル/PCB 分解経路をコードする可動性遺伝因子ICEbph-sal の接合伝達効率の不安定性	横井・廣瀬
藤野 彩未	宮崎大学大学院工学研究科	長波長域に吸収帯を有するグルコース連結リン水素化ポルフィリン錯体の合成	松本
藤本 優陽	宮崎市役所	<i>NN</i> -ジメチル長鎖アルキルアミンと酸素を用いた銀ナノワイヤの大量合成法の開発	塩盛・松根
外園 春菜	京セラ	ビフェニル/PCB 分解性細菌KF702 株のキメラ型芳香環メタ開裂酵素遺伝子群の機能解析	横井・廣瀬
前川 梨音	アドバンテック	ビフェニル/PCB 分解性細菌KF703 株の芳香環メタ開裂酵素遺伝子群の変異体取得の試み	横井・廣瀬
松本 茉莉南	宮崎大学大学院工学研究科	<i>N</i> -ラウロイルサルコシンを基体とした深共晶溶媒の創出とSc ³⁺ , Y ³⁺ およびFe ³⁺ の分離	菅本
南 明里	ワールドインテック	多孔性マイクロカプセル骨格へのジチオール分子の組み込みの検討	塩盛・松根
山下 優雅	国土交通省九州地方整備局	新規ポリエチレンジスルフィド粒子の表面修飾と機能化	塩盛・松根
山本 真瑛	宮崎大学大学院工学研究科	ペントース資化性酵母との混合培養における <i>Clostridium beijerinckii</i> の生育及び水素生産	横井・廣瀬
吉寛 晃輝		化学処理を行ったモンゴル産羊毛フェルトの銅イオン吸着特性	塩盛・松根
吉田 知也	トライアル	光応答性ニオブ酸複合体が示す層間伸縮運動における温度効果	白上・鍋谷
米井 勝太	全教研	光学活性なフィタン酸の合成	菅本
若松 寿紀	宮崎大学大学院工学研究科	<i>NN</i> -ジメチル長鎖アルキルアミン型イオン性液体中での銀ナノワイヤ生成の機構解明	塩盛・松根
石坪 雄大	国土交通省九州地方整備局	脂溶性P-ポルフィリン錯体を固定化したリボソームを反応場とする光酸化反応	松本
川崎 敦史	宮崎大学大学院工学研究科	ビフェニル/PCB 分解経路をコードする可動性遺伝因子ICEbph-sal の環状中間体の検出	横井・廣瀬



感謝

工学研究科工学専攻環境系コース2年 中村 風太

「大学に進学すれば、何かやりたいことが見つかるかもしれない」という期待を胸に私の大学生活はスタートした。初めての一人暮らしや初めてのアルバイトなど楽しみなこと以上に不安なことが多かったのを今でも鮮明に覚えている。私は、6年間の大学生活において様々な経験や知識等を得ることができた。特に友人やアルバイトで知り合った方々、研究室の教授の方々や先輩後輩など、私を取り巻く周囲の人たちに恵まれたと思っており、そんな方々との出会いの全てが私の大学生活における一番の大きな財産となった。

友人とは普段の講義以外にも、テスト勉強やレポート作成、学会発表、就職活動、時には夜遅くまで遊んだことなど、数え切れない程の思い出がある。いつも友人が傍にいてくれ、助けてくれたからこそ、色々な面で成長できた今の自分があるのだと思う。研究室の教授の方々や先輩・後輩は、実験のことだけではなく、進路の相談や就職活動のアドバイス等、沢山のことをサポートしていただき、沢山のことを学ばせてもらった。私が学部時に就職と進学で悩んでいた際に、「将来の進路選択をより真剣に考えるためにも」と大学院進学に背中を押してく

れた鍋谷准教授や先輩には本当に感謝している。大学院に進学したことで、学部時よりも納得のいく就職活動をすることができ、志望していた研究職に就くことができた。また、研究や学会論文発表などを通して、高校生の頃にはなかった「やりたいこと」を見つけることができたと感じている。

大学院の2年間は、新型コロナの影響もあり、思うように研究ができない状況や全てのオンライン化、研究室でのイベントなどが行えないなど、正直辛い時期や慣れないこともあったが、この経験を社会人になっても糧にして頑張っていきたい。

残り少ない学生生活、これまで支えてくれた両親、友人や後輩達、教授の方々に感謝の気持ちを忘れず、後悔のない毎日を大切に過ごしていきたい。



前列右端が筆者

大学生活で得たもの

私は高校生の頃から化学の分野を学びたいと思っており、環境応用化学科に進学しました。宮崎大学で過ごした4年間では学問やアルバイトに励み、多くの経験を得ました。

大学2年の時、大学で学んだ知識をより

工学部環境応用化学科4年 芳中 広奈

深めようと甲種危険物取扱者の資格取得を目標に掲げました。友人とともに、放課後に自習室で資格試験の学習に励みました。しかしながら、1度目の試験は不合格という結果でした。あと1問正解していれば合格とい

う結果であり、とても悔しかったことを覚えています。自宅では、怠けてしまい試験勉強を開始するまでに時間がかかっていたことが不合格になった原因だと考えました。そこで、大学の自習室を利用することで集中力を高め学習効率を上げようと考え、授業後に勉強を行いました。この結果、2度目の試験では合格することができました。合格できなかった原因を分析し改善することで、目標を達成することができると実感できた出来事でした。

また、研究室に配属されてからは、研究活動に勤しんでいます。研究活動を始めたばかりのころは、先輩に教えてもらいながら実験をこなしていくことだけで手一杯でした。実験のスケジュールの組み立てがうまくできずにデータが揃わなかったり、実験の手順を間違えてしまいもう一度実験をし直したり、多くの失敗をしました。しかし、今では、実験の計画を立て実行していく力、操作の確認を確実に行う習慣が身につきました。このよ

うに、研究室で過ごした約1年間は、自分自身が大きく成長したと感じています。自分で考えて行動する力がいかに大切なのかを思い知りました。研究室内で一緒に実験を頑張っている同期やとても頼りになる先輩方と互いに切磋琢磨でき、私にとってかけがえない日々となりました。

私は、4月から社会人になります。この大学生活で得た「目標に向けて、計画的に行動をすること」を仕事にも繋げていきます。残り少ない学校生活ですが、研究活動を悔いのないように取り組んでいこうと思います。



実験中の筆者

報告

卒業生による特別講演会

令和2年11月19日(金)、卒業生による特別講演会が学部3年生と修士1年生を対象に「教員と学生の懇談会」と合わせて開催されました。平成28年に本学環境応用化学



写真は講演中の坂口氏

科を卒業され、霧島酒造株式会社に就職された坂口 理奈 氏に講演をしていただきました。会社の概要、ご自身の学生時代の経験、就職活動および現在の仕事の内容とやりがいなどを講演されました。霧島酒造は、講演された時点で焼酎の売上と出荷量が8年連続日本一であり、会社創立100周年を過ぎ、新しい工場の建設が進む中での女性社員や若手社員の活躍を紹介され、学生は真剣に聞き入っていました。

ご講演、ありがとうございました。

2020 年度卒業式

宮崎大学では新型コロナウイルス感染症拡大の現状を鑑み、例年シーガイアで開催していた卒業に伴う式典を中止し、昨年度同様 2020 年度卒業式についても学内で学科単位での学位授与式を 3 月 23 日に実施しました。ご家族の皆様のご参加はご遠慮していただき、卒業生と教職員のみで 30 分程度の卒業式となってしまう

した。卒業生の皆様は、大変な時期に社会へと旅立って行かれますが、健康には十分気を付けて活躍してくれることを期待しております。何か困ったことがありましたら、大学の先生方に連絡をとってみてください。また、化学会の先輩方が周りにいるかもしれません。探して、相談してみるのもいいかもしれませんね。



記念写真の様子

年 次 別 所 感

1963 年に卒業後、新薬合成を夢見て武田薬品に入社しましたが、活性炭関連部門に配属され、定年退職するまでの 37 年間、活性炭の研究開発を担当しました。社内の研究環境にも恵まれ、空気および水に関連する環境を改善するテーマに比較的自由に研究開発でき、特許出願は百数十件に及びました。その中には、排ガス中の NO_x のアンモニア接触還元、薬品添着活性炭による脱臭、尿素によるアルデヒド除去などに関して触媒学会、吸着学会、におい・かおり環境学会からそれぞれ技術賞をいただき、これらは今なお注目される技術になっています。武田薬品定年退職も中小企業において高度浄水処理で重要なオゾン・活性炭工程の研究を続け、活性炭表面に多く生じる酸化物に興味を抱きました。これに関連して活性炭表面窒素化合物、活性炭表面硫

相部紀夫 (38 年卒)

黄化合物などの表面錯化合物を調査・研究し、最近、技術月刊誌「機能材料」に 3 編投稿しました。その一部の活性炭表面錯化合物を宮大・塩盛研究室が取り上げていただきで、研究されはじめその動向に注目しています。

同期会として「三八会」を 2 年毎に開催していましたが、コロナ問題で 2018 年 (写真) 以来開催できていません。早くコロナが終息して仲間と楽しく会合できるよう強く願っています。



38 会同窓会 (2018.12 開催) 前列右端が筆者

宮崎大学を卒業して、九州は北九州市小倉北区に本社を置く小倉合成工業株式会社に入社しました。今年で入社15年目となり中堅のポジションとして業務と向き合っております。当社はひまし油というユニークな特徴を持った植物油の精製加工、誘導体の製造および高圧反応を中心とした受託業務を中心とした事業を行っております。

ひまし油事業では近年流行りのサステイナブル資源への切り替えという面で石油由来資源からの置き換えという事に着目され事業の盛り上がりを見せております。

私の所属する研究開発室では、ひまし油を使用した新規製品の創造をする事もさることながら、受託業務への取り組みも行っております。当社は先に申した高圧設備を用いた水素化(還元)反応+精密蒸留を得意としておりニッチな分野ではありますが、電子材料や化粧品分野で外せない技術であり、当社の名前で皆さんが手にする製品になるわけではありませんが、中間品の精製加工など我々の技術を介した商品も世の中に流通しております。いわゆる大手メーカーと協業して技術を高めながら世に新しい商品を発信していくやりがいのある業務にあたっております。

私の職場は宮大卒業生を含む若い人が多く、各々にテーマを持ち、基礎実験～実機製造までの一貫した業務を実施しております。日々新しい知識を吸収し、研究レベルから実機製造する難しさ、課題を

クリアした時の達成感を感じ業務に取り組んでもらっております。(※1写真)

※1



最近の当社の取り組みとして、先日『小倉城竹あかり』という北九州市のイベントに当社製品でもある国産の米糠を原料としたライスワックスで作ったろうそくを提供し地域貢献にも力を入れております。(※2写真)

※2



近年は海外進出にも目を向け『小倉から世界へ』『MADE IN KOKURA』を合言葉に、今までよりワンステップ進んだ事業化に邁進していきたいと思っております。最後になりますが、皆様のこれからのご飛躍を願っております。

ふるさと納税から見た都城 ～都城編～

山下 敏明 (60 年卒)

都城市がふるさと納税額で全国 1 位であることを
ご存知の方は多いと思う。表 1 は、令和 2 年度
のふるさと納税受入額が多いトップ 10 団体である。

表 1 ふるさと納税受入額が多い 10 団体 (令和 2 年度)

順位	県	団体名	納付額	順位	県	団体名	納付額
1	宮崎県	都城市	135	6	山梨県	富士吉田市	58
2	北海道	紋別市	134	7	山形県	寒河江市	57
3	北海道	根室市	125	8	兵庫県	洲本市	54
4	北海道	白糠町	97	9	兵庫県	加西市	53
5	宮崎県	都農町	83	10	静岡県	焼津市	52

総務省「ふるさと納税に関する現況調査等」より

〔単位億円〕

全国から都城市への納税額は 135 億円 (60 万件分)
であり、東京都全体への納税額の 43 億円を大きく
上回っている。大幅に納税額が増加したのは、イン
ターネット上で簡単に申請できるようになった平成
27 年からであり、池田都城市長の意気込みと
大々的な宣伝により全国 1 位を 3 回達成している。
図 1 は、都城市のふるさと納税額の推移である。

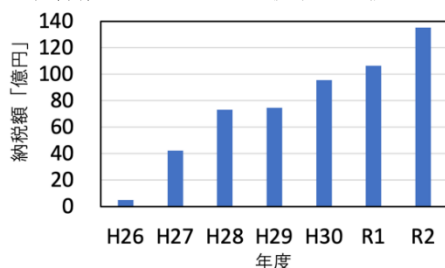


図 1 都城市へのふるさと納税額の推移

総務省「ふるさと納税に関する現況調査等」より

一方、県内のふるさと納税に目を向けてみると、
都城市と鰻や宮崎牛等を返礼品とする都農町と合
わせて県全体の寄付納税額の 6 割を占めている。

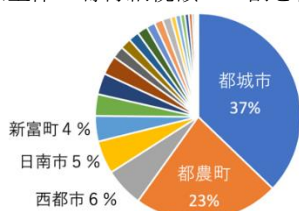


図 2 宮崎県内の各市町の納付額の比率 (令和 2 年度)

総務省「ふるさと納税に関する現況調査等」より

このようにして、全国から寄付された 135 億円も
のふるさと納税金は、都城市の 1 年間の税収の 10%

に及ぶ。使途としては子供支援が約半分を占める。

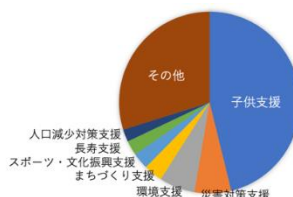
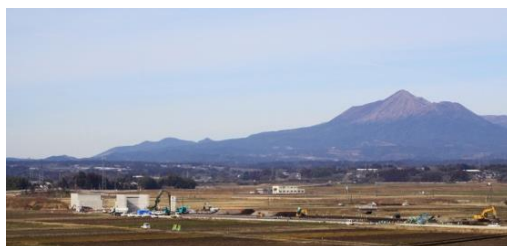


図 3 都城市の寄付金の使途 (令和 2 年度)

都城市「ふるさと納税特設サイト寄付金の実績」より

さて、都城市の代表的な返礼品は、言わずもが
な、牛肉、豚肉、鶏肉、焼酎である。農林水産省の
調査によると、都城市は令和元年の市町村別の農
業産出額の全国第 1 位で、産出額は 877 億円とな
っている。ふるさと納税が畜産業を後押ししてい
ることは間違いないであろう。ふるさと納税によ
って、都城市の畜産業関連の生産者は潤い、また、
都城市のさまざまな支援が充実する。私は都城市
民であるため、肉、焼酎の恩恵は受けられないが、
その代わりに網走市、根室市等に納税した。ふるさ
と納税のシステムで、都城市の発展を感じたいと
ころであるが、私自身の実感、網走市のカニがう
まい！根室市のウニが美味だ！である。

都城市は、「住みたい田舎ベストランキング (宝
島社『田舎暮らしの本』2020 年 2 月号)」の人口 10
万人以上の大きなまちの総合部門で、九州 1 位、
全国 10 位に選ばれた。2024 年度には、志布志と都
城を結ぶ地域高規格道路が全線完成予定である
(写真は建設中の道路)。志布志と都城が結ばれ、
また、ふるさと納税で街が潤うことで、都城の地
が、益々住み良い街になることを期待したい。



あとがき

ここに会報 No. 35 をお届けします。ご協力いただきました方々に心よりお礼申し上げます。会報発行が遅くなり、
本当に申し訳ありませんでした。これからの会報の内容充実を図り読み易いものにするために、何かお気づきの点があ
りましたら、化学会本部事務局までご連絡頂ければ幸いです。

三重野前会長、本当にこれまでご苦勞様でした。これからも、ご指導ご鞭撻のほど宜しくお願い申し上げます。

最後に皆様のご健康とご多幸をお祈りいたします。

令和 4 年 12 月 編集委員一同

化学会 Facebook : www.facebook.com/miyadaikagaku